

No.	ご意見	意見要旨（A I 要約）	魚津市の考え方
1	（施策11「DXの推進」、及び重点施策について） どう思います？今回の“後期基本計画(案)”にサブ・タイトルを加えるとすれば、『理想論？現実論？』さて、どっち？！。 これからの時代、重要Wordインテリジェンス(“情報・収集・解析・発信開示力)だだ人間誰しも年を取ると体力・認知・収入がおちていくものデジタルトランスフォーメーションには頼れなく時が必ず訪れる。(まだ想像にもないと思いますが。) この事実も念頭に置いてくださいますようお願い申し上げます。	●計画の実効性への疑義 本計画案が、現実を直視した「現実論」になっているか、単なる「理想論」に留まっていないかを再考すべきである。 ●インテリジェンス（情報力）の重要性 これからの時代は、情報の収集・解析・発信開示を行う能力（インテリジェンス）が極めて重要になる。 ●加齢に伴うDX（デジタル・トランスフォーメーション）の限界 人間は加齢により体力・認知能力・収入が低下するため、いずれデジタル技術に頼れなくなる時が必ず訪れる。その現実を念頭に置いた計画づくりが必要である。	ご意見ありがとうございます。 本計画は、理想を描きつつも、現実的な視点で課題解決に取り組むことを目指しています。 ご指摘の通り、デジタル化の推進と並行し、将来的に誰もが直面する体力・認知能力等の変化を見据えた施策も不可欠です。 本市では「誰一人取り残さないデジタル社会」の実現を掲げており、オンライン手続きなどの導入を進める一方で、機械操作に不慣れな方への支援として、スマホ教室を開催してきました。 頂いた意見を参考に、令和12年度に向けた本計画においても、「デジタルに慣れていない人々の不安を解消すること」を今後の課題に位置づけ、その解決に向け取組んでいくこととしました。 当市は、今後ますます進む高齢化社会の中でも、「ともにつくる 未来につなぐ 人と自然が輝くまち魚津」の実現に向け、デジタル化を含めた様々な手法を活用しながら、これからも市民の皆さまとともに取り組んでまいりますので、引き続きご支援とご協力のほど、よろしくお願いします。
2	（施策36「総合交通体系の整備」について） いま魚津市が進めておられる「チョイソコうおづ」について、今回の計画の中に、どれくらい成果が出ているのかを測る数字（指標）が入っていないのが気になりました。 免許を返納した高齢者や、車がない人にとって、チョイソコはすごく大事な足。だからこそ、今どれくらいの人が使っていて、みんなが満足しているのかをちゃんと評価して、市民にもわかるようにしていただきたいです。 「便利になったね」とみんなが実感できて、もっと使いやすくなるように、しっかり計画に盛り込んで改善していただきたいと思います。	●成果指標（数値目標）の設定 「チョイソコうおづ」の成果を測るための具体的な数字（指標）が計画案に含まれていないため、利用者数などを明確に設定すべきである。 ●客観的な評価と市民への公開 高齢者等の移動手段として重要な事業であるからこそ、利用実態や満足度を適切に評価し、市民が把握できるようにすべきである。 ●計画への反映と継続的な改善 市民が利便性を実感し、より使いやすいサービスとなるよう、評価結果を計画に盛り込み、着実な改善につなげてほしい。	ご意見ありがとうございます。 公共交通の維持・充実、高齢者や移動に困難を抱える方々にとって極めて重要な課題であると認識しております。 「チョイソコうおづ」については、現在、利用登録数や月間乗車人数などのデータを継続的に集計・分析しています。令和8年度は、魚津市地域交通利便増進計画を策定する予定でいます。策定する計画のなかで、実績値を踏まえた具体的な数値目標（指標）の検討を進めてまいります。また、数値目標は市民の皆様に分かりやすく公表するとともに、より利便性の高い運行体制への改善・是正に努めます。 令和12年度に向けた本計画においても、誰もが利用しやすい公共交通を重要な施策として位置づけ、着実に取り組みを推進してまいります。

3	(施策11「DXの推進」、及び重点施策について) DXとかデジタル化とかどんどん進んでいますが、高齢の両親を見てみると、これからどうなってしまうだろうと心配になります。魚津は高齢の方が多いですし、令和12年までの計画となると、もっと高齢化が進みますよね。 マイナンバーとかオンライン手続きとか言われても、機械が苦手な人はそれだけで不安なんです。でも、今回の計画には「ついていけない人への対策」が具体的に書かれていないように見えます。 せめて、気軽に相談できる窓口をずっと置いてくれたり、スマホ教室をもっと頻繁に開いたりして、お年寄りが置いてけぼりにならないようにしてほしいです。	●デジタル化に伴う高齢者の不安解消 DXやオンライン手続きが推進される中で、機械が苦手な高齢者が取り残されることへの強い不安があるため、具体的な対策を講じるべきである。 ●「誰一人取り残さない」施策の具体化 令和12年に向けたさらなる高齢化を見据え、デジタル化についていけない人々への配慮を計画に具体的に明文化すべきである。 ●対面サポートの維持と教育機会の拡充 気軽に相談できる窓口の常設や、スマートフォン教室の頻繁な開催など、高齢者が安心して利用できる支援体制の強化を求める。	ご意見ありがとうございます。 デジタル化の進展に伴う高齢者の皆様の不安を解消し、誰もが安心して暮らせる環境を整えることは、本計画においても極めて重要な課題であると認識しております。 本市では「誰一人取り残さないデジタル社会」の実現を掲げており、オンライン手続きなどの導入を進める一方で、機械操作に不慣れな方への支援として、スマホ教室を開催してきました。 頂いた意見を参考に、令和12年度に向けた本計画においても、「デジタルに慣れていない人々の不安を解消すること」を今後の課題に位置づけ、その解決に向け取り組んでいくこととしました。 当市は、今後ますます進む高齢化社会の中でも、「ともにつくる 未来につなぐ 人と自然が輝くまち魚津」の実現に向け、デジタル化を含めた様々な手法を活用しながら、これからも市民の皆さまとともに取り組んでまいりますので、引き続きご支援とご協力のほど、よろしくお願いします。
4	(計画全般について) 頂いた資料は過去の物です。新たに出来た政権は、積極財政が基本です。緊縮財政の中では全てお金が無いから出来ないとわれ何もし出来なかった。30年間成長する事を否定された時代です。夢も見られず我慢の時代です。 もうやめましょう。せめて計画は前々に考えて行きましょう。新たな政権と一緒に「夢と希望」に挑戦する気概が必要です。 そもそも、30年成長しなかった時代を基本にする事とは、財政政策を健全する事が主眼になり経済は次になり成長が次になる、それではいつまで経っても良くはなりません。1990年代でバブルを経験しその後30年成長しない時代です。 これは勿体ない話です。これからの発想は「成長する…？」です。行政は継続性を大切にしている事は大事ですがトップが変わった時は思い切って変えるタイミングかも知れないです。 大きな変換の時期に来ている。決断の時です。	●積極財政への転換 「お金がないからできない」という過去30年間の緊縮財政的な考え方から脱却し、新政権の動きに合わせた積極財政を基本とすべきである。 ●「成長」を主眼に置いた計画策定 財政健全化を優先して成長を後回しにするのではなく、経済成長を優先し「夢と希望」に挑戦する前向きな計画が必要である。 ●時代の転換点における決断 現在は大きな変革の時期であり、行政の継続性にとらわれすぎず、トップの交代などを機に思い切った方針転換を図るべきである。	ご意見ありがとうございます。 社会経済情勢の変化や国の財政方針を注視しつつ、将来にわたって持続可能な市政運営を目指すことは極めて重要であると認識しております。 本計画案においては、これまでの行財政改革の成果を維持しつつ、限られた財源の中で市民サービスの質を確保するため、引き続き財政の健全性を重視する方針を掲げております。 これは、将来的な人口減少や社会保障費の増大を見据え、次世代に負担を先送りせず、安定した行政運営を継続するための現実的な判断に基づくものです。 ご指摘の「成長」や「挑戦」という視点は地域活性化に不可欠です。計画の実施段階においては、国や県の新たな政策動向を柔軟に捉え、機動的に必要な投資や施策の展開ができるよう、社会情勢の変化に即した適切な運用に努めてまいります。